

中心市街地の賑わいの創出について(中心市街地活性化基本計画の概要)

上田市商工観光部商工課

1. 中心市街地活性化への取組

上田市では、平成 11 年度に「旧中心市街地活性化基本計画」を策定し、「歴史が暮らしをつつむ、ときめきの街をめざして」をキャッチフレーズに、駅周辺の再開発事業、都市計画道路及び一般市道の整備等計 56 の事業を計画し活性化に取組み、市の顔となる都市基盤の整備を進め一定の成果は見られましたが、中心市街地の空洞化に歯止めをかけることはできませんでした。

その後、「まちづくり三法」の改正に合わせ、市では、平成 18 年 9 月に専門家、学識経験者、事業者等で構成された「上田市中心市街地活性化基本計画策定委員会」を設置し、また上田商工会議所を中心に「上田市中心市街地活性化協議会」が、さらに「まちづくり上田株式会社」が創られ、中心市街地活性化に向けた体制が整いました。

そこで、新たな基本計画づくりに取組み、平成 22 年 3 月に「上田市中心市街地活性化基本計画」が国の認定(全国で 96 番目、県内 4 番目)を受けました。

2. 基本理念と基本方針

現在の上田市の中心市街地の基礎となったのは真田氏による上田城築城であり、その城下町を基礎として以後 400 年以上を数える長い間、発展してきたことは市民の理解が共通しているところです。そこで、上田市の中心市街地の活性化のテーマを「400 年の歴史を超えた城下町ルネッサンス」として、真田昌幸以後の城主や明治以後の先達がまちづくりに賭けた熱意を超えて、地域が一体となって中心市街地の活性化に取り組むことにしました。

具体的な事業についてはテーマをさらに区分して「城下町としての賑わいの再興」、「歴史的・文化的資産の活用」、「城下町としての意識の高揚」の視点を取り入れて展開を図ることになりました。

3. 計画期間:平成 22 年 3 月～平成 27 年 3 月

4. 中心市街地活性化の将来像(イメージ)

中心市街地の将来像を、多様な人々が安心・安全に暮らすとともに、「東信州の観光拠点都市」上田の玄関口として、様々な連携を育み、賑わいを形成する快適都市

- ①住む人が豊かで快適な時間を過ごせる生活快適都市
- ②訪れる人が豊かで快適な時間を過ごせる交流快適都市、としました。

5. 数値目標(平成 23 年 3 月 1 日現在)

目標1 居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める。(生活快適都市)

指標:「中心市街地の居住人口」

6,897 人(平成 20 年) → 7,059 人(平成 26 年)

目標2 市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る。(域内交流)

指標「中心市街地の歩行者通行量」(平日)

22,404 人/日(平成 20 年) → 24,257 人/日(平成 26 年)

参考数値目標:新生「上田市」の総合的なブランド力を高める(域外交流)

指標「上田城跡公園周辺施設(上田城南櫓、上田市立博物館、池波正太郎真田太平記館及び観光会館)年間利用者数」

174,754 人/年(平成 20 年度) → 180,000 人/年(平成 26 年度)

6. 中心市街地活性化のための主な事業

①総合保健センター整備事業

街なかに、少子高齢化社会に対応した新たな基幹保健センター、併せて子育て支援機能を集約した子育て支援センター、発達相談センターの機能も持つ施設を整備しました。

②交流・文化施設整備事業

市民交流スペースや大小のホール、市民ギャラリー、常設展示場。新生「上田市」の一体感を醸成し、更なる発展の象徴として位置付ける施設であり、地域や世代を超えた新たな交流と活力を生み出すとともに、伝統文化の継承と新たな市民文化の創造に取り組むことで、都市の魅力を高めていく事業です。

7. おわりに

国の認定を受けてから、ようやく1年半が経とうとしていきます。上田市は、これまでも住む人、訪れる人にとって豊かで快適な時間を過ごせるまちを目指し、商店街に対しハード整備補助、イベント事業費補助、空店舗出店支援補助等の直接的支援、また、広報等による商店街の魅力発信及び商店街と市民団体等との連携促進など間接的支援を行なっておりますが、市街地活性化、街なか回遊のためには、まず商店街等事業実施者の主体的取り組みが期待されるところです。

中心商店街では、これまでもイベントの開催、フリーペーパーの発行、空き店舗活用事業や有料駐車場事業、ストリートファニチャーの設置等に取り組まれていますが、最近では、独自に国等の助成金を受け活性化事業に取り組む商店街も増え財源確保の面でも主体的な取り組み事例が見られるようになりました。平成21年度には、うえだ原町一番街商店会と海野町商店街振興組合が経済産業省の「地域商店街活性化事業補助金」の事業採択を受け、原町一番街商店会では「幸村コンテストとキャラクター開発」などを、また海野町商店街では、海野町会館の省エネ化改修と市民団体との連携による街なか賑わい創出に取り組みました。また平成22年度には、松尾町商店街振興組合が、やはり経済産業省の「地域商業活性化事業補助金」の事業採択を受け、空店舗を活用した「食のコミュニティスペース・人材育成事業」に取り組み、23年度から本格的に事業展開を図っています。

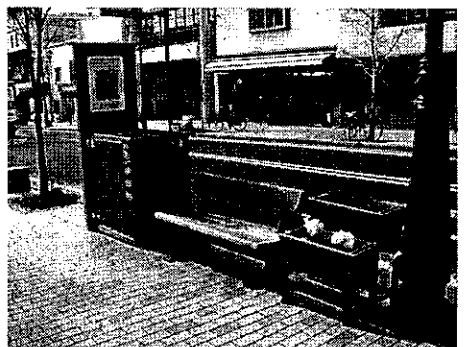
市としても今後さらに、商店街の主体的取り組みが誘発できるよう、「テナント出店支援事業補助金」等による支援のほか、国等の施策や補助金等の情報及び商店街の課題の共有化を図り、一層連携し、ともに賑わいづくりに取り組んでまいります。



松尾町・食のコミュニティスペース



北国街道 柳町



木のストリートファニチャー